

中村 彰良 教授

【なかむら あきよし】

1996年に高崎経済大学に来てから十数年がたちました。その前まで4年ほど短大の教員をしていました。年齢のわりに子供が小さいので、体力的に子育てが大変です。



- 簿記論C
- 管理会計論

管理会計という分野について

私の専門は、管理会計ということになると思います。授業でも管理会計論を担当しています。その他に授業では、簿記論も担当しています。簿記は、会計を学ぶ上で、基礎となる科目です。簿記の手続きに従って企業の取引を記録していると、それが集計され、やがてまとまった内容の情報を提供する会計報告書が生み出されます。その仕組みは非常によくできていて、感動的ですらあります。一方、管理会計は、意思決定や業績評価のための会計です。具体的には、設備投資をするにあたって、判断の材料となるような情報を提供したり、予算のような計画書を作って、それを実績と比べて問題点を改善するための資料となるような情報を提供したりするのが、管理会計です。

ゼミでやっていることも、管理会計が中心になっていると思います。まず、全員で読む本を決めて、その本について分担を決めて、その内容についてみんなの前で発表してもらいます。その後で、その発表について、他の人から質問してもらったりするということをしています。選ばれる本は、管理会計に関するものが多いですが、違うものが選ばれることもあります。また、合宿では、ビジネスゲームというものをやっています。ビジネスゲームは、グループごとに価格や広告に関する計画書を出してもらい、それによって受注数量が決まるので、そのデータをもとに会計報告書を作成するというものです。

最後に、研究テーマについて書くと、やはり管理会計がテーマということになります。特に、上司が部下に仕事してもらい、その結果、成果が得られるが、それが部下の努力によるものなのか、たまたま運によるものなのか分からないというような状況をモデル化し、その中で管理会計の働きを考察するようなものに興味があります。このようなモデルの限界も意識するようになってきていますが、「現実的でない」などと言って、無視する立場にも立っていません。他の研究との融合を模索中です。

ゼミ生のひとこと



私達中村彰良ゼミナールでは、一般的な会計知識の取得を目指し、日々のゼミナール活動に取り組んでいます。具体的には、発表する側と質問する側に分かれて、お互いに意見を言う形をとっています。先生の授業の特徴は、疑問点を学生が考えるという点にあります。これは、私達が社会に出てでも大切な力になるので、大変役に立つと思います。

2008年入学 戸張 玲